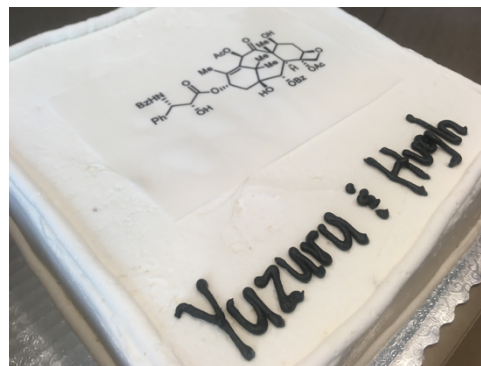


## 博士号取得報告書

2020/05/27 Scripps Research  
荊田 譲

コロナで大変になっている時期に多くのイベントが起きました。コロナが大学・研究機関へ及ぼした影響についてはきっと誰か他の人が報告書で書いてくれると思うので自分は個人的なことをまとめるに留めます。

ようやく論文が JACS に出ました (DOI: 10.1021/jacs.0c03592). 大体は 2 年前くらいに出来ていたのですが、このプロジェクトは 13 年間も研究室で走り続けていたので、ボスのこだわりがあったのか投稿するまでにかなり時間がかかりました。投稿当時は既に自宅待機要請が出ていたので家からボスと Zoom を繋ぎながら論文を投稿しました。レビュワーから追加実験を要求されなかったのが不幸中の幸いです。ジャーナル投稿前にプレプリントサーバー ChemRxiv にも投稿したのですが ([https://chemrxiv.org/articles/Two-Phase\\_Synthesis\\_of\\_Taxol\\_/12061620](https://chemrxiv.org/articles/Two-Phase_Synthesis_of_Taxol_/12061620)), >12000 view, >6500 download と、ChemRxiv 史上最大級の閲覧数を記録しました。プロジェクトがおわっての雑感もラボのブログに寄稿したので是非読んでください



合成達成祝いのケーキ

(<https://openflask.blogspot.com/2020/05/taxol.html>).

ディフェンスも家から Zoom で行いました。自分も Scripps 側も初めての試みで不安はありましたが予想以上にスムーズに進み (参加者 > 100 人!) 公開講演後の質疑応答も白熱しました。ディフェンス後パーティーできなかったのが心残りですが、Zoom 経由で皆が集まってくれました。そして残念ながら卒業式はバーチャルで執り行われるそうです。人生初のアカデミックガウン、家族、友達、



ディフェンス後の Zoom パーティー

ファカルティー達とテーブルを囲んで食べるご飯を楽しみにしていたので非常に悲しいです。やるのならば延期または来年に持ち越して欲しいと数人で学生課にかけあったのですが、安上がりだからかバーチャルで行われることが決定してしまいました。

ディフェンス後は先述したプロジェクト 13 年のまとめ総説執筆、ボスからの雑用、別プロジェクトの原料合成、たまっていた本や論文の消費、バーチャルシンポジウムの運営、引越し準備などをしていました。自宅待機中はセミナーの数が増え、思っていたほど気の休まる暇がありません。6月1日からは MIT の Radosevich 研でポスドクをします (2016 年度奨学生 田主陽さんの在籍している研究室)。コロナで新規雇用が停止する前にポジションをもらっていたことはラッキーでしたが、この報告書を書いている段階ではまだ不確定事項が多々あります。

このロックダウン中の引越しと新ポジションスタートは様々な面倒を乗り越える必要がありました。まず一番に健康保険です。コロナ禍以前に OPT の申請をしていたので Scripps での終了日と MIT での開始日はどちらも確定していました。Scripps との雇用契約終了に伴って Scripps による健康保険の適用も終了します。後者は遅らせることもできましたが、新しく雇用され始めないとこの世界的パンデミック中何の保険にもカバーされていないという恐ろしい状況が生まれるため、何がなんでも引越しを完了させる必要がありました。アメリカ健康保険制度の欠陥が身に迫ってくる感覚は筆舌に尽くし難いものがあります。人々の購買意欲が下がっている車や家具を売り払うのは非常に困難でした。最終的になんとか私物の処分はできたのですが、結局最後まで解決できなかった問題が日本への私物郵送です。国際航空便がほぼ欠航しているため輸送費が異常に高く、船便は帰国に伴ったもの以外受け付けていませんでした。

博士課程はこのような終わりになってしまいました。非常に実りあるものになりました。留学する当初、将来何の研究をするにしても自分で分子を作れるようになりたいと意気込んで分野を変えた当初の目的は達成できたと思います。とはいえ、振り返ってみると当時無知だった自分はこれから何を勉強するのかもよくわかっていませんでした。そんな博士課程を5年間サポートしてくださった船井財団には非常に感謝しています。船井は留学用奨学金の中でも最も手厚いサポートをしてくださる財団です。今の研究室に所属できたこと、ここで研究を継続できたことは船井のおかげです。この恩義を科学の発展という形で世界に還元できるよう努力します。